

大祭司となるために

2024年4月21日

ヘブル人への手紙 2章14～18節

序：御子は神

創造者
統治者
永遠・不変
○贖い主・救い主
さばき主
勝利者（栄光と誉れ、万物を従わせる）

I. 贖い主・救い主

(1) 低くされる（謙卑）
神の栄光を控えて、人となられた
多くの子たちを栄光に導くための苦難と死

(2) 高くされる（高举）
復活（罪と死・サタンに対する勝利）
顕現（弟子たちに現れた）
昇天
着座

(3) 結果：救われた者とは兄弟（同じ神が父、実子と養子）
神を賛美、礼拝する信仰者たち＝教会

II. 贖いの方法と目的

(1) 方法 = 血と肉を持つ（肉体を持つ人となる）
神は肉眼では見えない、霊なる方

① 死ぬことができるため

② 兄弟たちと同じようになるため

(2) 目的 = 死の恐怖から信じる者を解放する
||
罪の刑罰（死は自然なものではなく、不自然なもの）
罪がなければ、課せられない

① 主はご自分の死により、死の力を持つ悪魔を滅ぼす
例：遼原の火事、森林の火事

② 人間の罪のためのなだめがなされるため
↑（世の罪を取り除く神の子羊：あがね）
神の怒り

③ 憐れみ深い、忠実な大祭司となるため
仲介者・仲保者（神と人との間を取り持つ）
両方から認められ信頼がある
その資格がある
神は被害者、人間は加害者

④墮落した御使いを救うためでなく、墮落した人間（罪人）を救うため

Ⅲ. 御子イエス・キリストの助け

(1) アブラハムの子孫を助ける = 真のイスラエル、イエスを主と信じる聖徒たち
イスラエル民族の原点 を助ける
信仰の父

(2) 試みられている者たちを助ける

∴ ご自身が試みを受け、苦しまれた経験がある ヘブル 4・15

Ⅳ. 結び

(1) 主は罪人を救うために、罪は別としてすべてにおいて人間と同じようになられた

(2) 主の救い主としてのご生涯（クライマックスは十字架上の身代わりの死と体をもつての復活）は悪魔と死を滅ぼし、死の恐怖の奴隷であった人々を救い出すためであった

(3) 神への背信の罪を悔い改め、主の贖いを自分の救いのためと信じ、信仰を告白するすべての人に有効

(4) 墮落した御使いには救いの道はないが、墮落した人間には救いの道（＝イエス・キリスト）が提供されている
信仰の手を伸ばして、受け取ればその人は救われる。そうしないなら、墮天使と同じく、救われることはない

(5) 定められた期間内に間に合って、神と人との仲介者イエスのもとに来て、罪の解決、死の解決、救いを得なければ、永遠に機会を失う

(6) イエス・キリストは贖い主であるだけでなく、助け主でもあられる
私たちが人生で経験するすべての喜怒哀楽・困難や試練を通られたので、同情理解してくださり、折りにかなった助けを与えてくださる

(7) 御子イエスは、大祭司（仲保者）として、神にとりなしてくださる
私たちは安心して、信頼して祈ることができる
救いの御業においても、神の子どもとされた後も、神と聖徒の間に立って、助け導いてくださる